

土木建築委員会 県内所管事務調査の概要

【平成30年12月6日（木）】

◆調査箇所：おおいた建設人材共育ネットワーク ～ BUILDおおいた ～

＜概要＞

当該ネットワークは、次代を担う実践力と創造力を備えた建設人材を産学官が共同して育み、地域に定着・還元することを通じて、建設産業の活性化と技術・技能者の社会的地位の向上、地域社会の発展に寄与することを目的に設立された。

建設産業の意義・魅力を発信するため、建設産業PR動画の配信や小・中・高校生向けの体験型学習会等に取り組むほか、若手・女性技術者の活躍支援、技術・技能者のスキルアップ研修等の充実、ICT・IoTを活用した地域課題解決に向けた共同研究など、建設産業の底上げにつながる様々な取組を展開している。

＜主な質疑等＞

- ・建設産業の魅力発信について
- ・建設産業の賃金向上に向けた取組について



◆調査箇所：国道210号天瀬改良（日田市天瀬町赤岩）

＜概要＞

天瀬改良と平行する国道210号の現道区間は、線形不良で崩落の危険性の高い急峻な地形となっている。平成28年の熊本地震時には、落石により約14日間の全面通行止めとなり、通勤・通学や物流輸送で大きな迂回を強いられるなど、沿線地域の生活や経済活動に大きな影響を及ぼした。

天瀬改良により新たなトンネルが整備されることで、緊急輸送への対応、物流の円滑化、生活交通の安全確保への寄与が期待される。

＜主な質疑等＞

- ・事業実施に係る地域住民との関わりについて
- ・トンネルの工法について



◆調査箇所：国道212号響峠バイパス（日田市大山町西大山）

＜概要＞

当該事業区間と平行する国道212号の現道区間は、歩道がなく急カーブなどの線形不良箇所も多いためたびたび交通事故が発生している。また、落石等による危険性が高い箇所もあるため、平成14年から新たなバイパス整備に着手し、事業完了予定の平成32年度に向けて着々と事業を進めている。

事業完了後は、幅員狭小や線形不良の解消のほか、自転車歩行者道の整備による歩行者等の安全かつ快適な通行の確保などの効果が期待される。

＜主な質疑等＞

- ・完了後の事業効果について
- ・トンネル掘削の進捗状況、安全性について



【平成30年12月7日（金）】

◆調査箇所：県道40号飯田高原中村線（九重町町田）

＜概要＞

平成30年7月の西日本豪雨に伴う斜面崩壊により、土石及び立木が当該県道に流出し、7月7日から18日まで全面通行止めとなった。

その後の9月の災害査定により災害復旧事業が決定し、今後は崩壊斜面部を吹付枠工等により復旧工事を進めていく予定となっている。



＜主な質疑等＞

- ・発災当初の状況について
- ・通行止め期間中の迂回路について

◆調査箇所：大分川ダム（大分市大字下原地先）

＜概要＞

大分川ダムは、昭和62年に事業着手し、大分川水系七瀬川上流に建設中の多目的ダムであり、全国的にも珍しいロックフィルダム（岩石や土を積み上げて作るダム）である。

昨年、ダム本体盛立工事が完了し、平成31年度の完成に向け、今年2月から試験湛水を行っている。また、ダムをいかした地域づくりに向けて、ダム建設とあわせてダム周辺に道の駅やイベント用の広場などの整備も進められている。

完成後は、洪水調節、河川環境の保全、水道用水の確保に大きな役割を果たすほか、ダム周辺の地域活性化も期待される。



＜主な質疑等＞

- ・試験湛水の状況について
- ・ダムをいかした地域振興策について